

横浜ゴムのサステナビリティ

横浜ゴムは、2008年、CSR・サステナビリティ経営を進捗させるために、CSR経営ビジョン、CSR行動指針を定め、責任部門としてCSR本部を設置、さらにCSR経営統括のため代表取締役社長を議長とするCSR・環境推進会議（現CSR会議）を設置しました。2014年には、国連グローバル・コンパクト※4分野10原則などの国際規範をもとに「横浜ゴムグループ行動指針」を制定、また、自社とステークホルダーの双方にとって影響が大きく、関心の高いテーマをマテリアリティ（重要課題）として特定し、その達成のためにPDCAサイクルを回して、継続的改善を図っています。創立100周年にあたる2017年には、CSRスローガンを制定し、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献するために、次の100年に向けた自らの持続的な成長を目指しています。

※「国連グローバル・コンパクト」は、国際連合と民間が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティ・イニシアチブで、参加企業に対して人権、労働、環境、腐敗防止の4分野に関わる10の原則を実践することを求めています。

CSR経営ビジョン (2008年制定)

「社会から揺るぎない信頼を得ている地球貢献企業になる」

CSR行動指針 (2008年制定)

- 変化し続ける社会動向をつかむ
- 貢献できる課題を見極める
- 迅速に行動し揺るぎない信頼を得る
- 一人ひとりがCSR当事者として行動する

横浜ゴムグループ行動指針※ (2014年制定)

- 社内外を問わず人権を尊重します
- 安全で健康な職場をつくります
- 地球環境との調和を図ります
- 安全・高品質な製品・サービスを提供します
- 透明性の高い企業活動を行い、適切に情報を開示します
- 法令のみならず社会規範を守ります
- 地域社会との共存共栄を図ります

CSRスローガン (2017年制定)

「未来への思いやり」

※項目のみ記載。詳細は、当社ウェブサイトをご参照下さい。
<https://www.yokohama.com/csr/feature/>

マテリアリティ(重要課題)の特定プロセス

横浜ゴムは、サステナビリティ報告書の国際的ガイドラインであるGRIガイドライン第4版(G4)準拠に向けて、2014年に社内の議論およびステークホルダーの意見を踏まえてマテリアリティ(重要課題)を特定しました。マテリアリティは、環境変化等を踏まえて2017年、2020年に見直しを実施しており、今後も随時見直しを行っていきます。

STEP 1 | G4ギャップ分析

「CSRレポート2013」の情報開示レベルをG4の要請に照らし、対応項目と未対応項目の内容と程度について現状を把握しました。(2014年1月実施)

STEP 2 | 課題の優先順位を整理

当社の業種、事業分野、事業地域に即して分析を実施。その後、関連部署との協議により当社における課題の優先順位を整理しました。(2014年1~2月実施)

STEP 3 | 課題の優先順位に外部視点を反映

ステークホルダー5人へのインタビューを実施。インタビュー結果を踏まえ、各側面の優先度を決定しました。(2014年2~3月実施)

STEP 4 | 重要課題の特定

ステップ2、ステップ3の重要度分析・調査・協議結果を踏まえて、2014年に重要課題を特定しました。

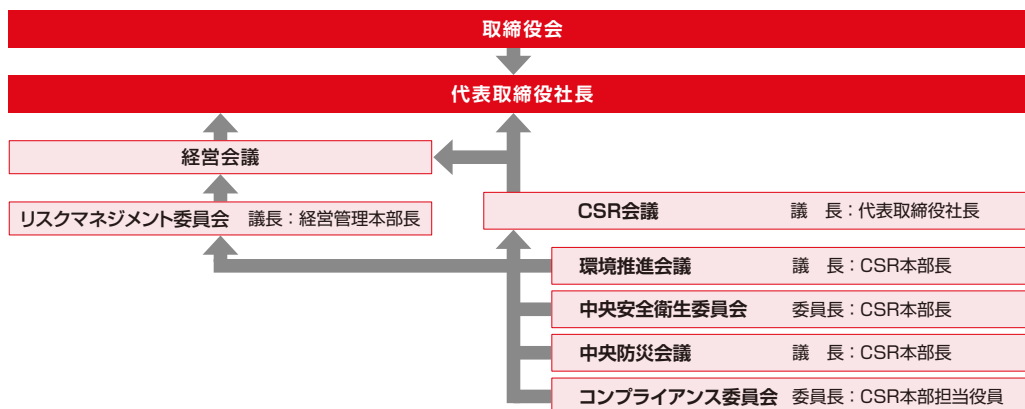
マテリアリティ(重要課題) (2014年特定、2017年、2020年見直し)

 製品を通して	安心と楽しさをいつまでも届けます	 
 地球環境のために	豊かな自然を次世代へ伝えます	    
 人とのつながり	共に高め合い笑顔を広げます	   
 地域社会と共に	共に生き、ゆるぎない信頼を築きます	    
 コーポレートガバナンス	グローバル化する社会的課題に正しく対処するための基盤を強化します	  

CSR・サステナビリティ推進体制

代表取締役社長が議長を務め、社内取締役及び社内監査役全員が出席するCSR会議を年に2回(5月・11月)開催し、横浜ゴムグループが取り組むべきCSR課題(環境、労働安全衛生、防災、品質、コンプライアンス、社会貢献等)について立案・検討する体制を整えています。個別のCSR課題について立案・検討する会議体としては、環境推進会議、中央安全衛生委員会、中央防災会議、コンプライアンス委員会等が設置され、より詳細な計画、施策を立案し、実行しています。また、CSR課題のうち、重大かつ緊急性の高い事案については、リスクマネジメント委員会と連携して対処していきます。

■ CSR・サステナビリティ推進体制図



マテリアリティ(重要課題)と中長期的な企業価値の向上

当社は、「未来への思いやり」というスローガンのもと、「製品を通して」、「地球環境のために」、「人とのつながり」、「地域社会と共に」、「コーポレートガバナンス」の5つのマテリアリティを事業戦略に結びつけ、基本理念の通り「心と技術をこめたモノづくりにより幸せと豊かさに貢献します」。

カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの取り組みだけでなく、生物多様性や社会貢献、地域共生、人権尊重、ダイバーシティ、コーポレートガバナンスなど、E・S・Gすべての重要課題に取り組み、これらを持続的な企業価値向上に繋げていきます。

基本理念：心と技術をこめたモノづくりにより幸せと豊かさに貢献します

地球環境のために

豊かな自然を次世代へ伝えます

- 生物多様性保全
- 社会貢献

地域社会と共に

共に生き、ゆるぎない信頼を築きます

人とのつながり

共に高め合い笑顔を広げます

カーボンニュートラル

新車装着タイヤ：製品製造時のCO₂排出ゼロ

サーキュラーエコノミー

モータースポーツタイヤ：サステナブル原料使用拡大

自然との共生

- YOKOHAMA千年の社
- 持続可能な天然ゴム調達

製品を通して

安心と楽しさを持続的に届けます

高付加価値の提供

高品質+高性能+サステナブル



- 人権尊重
- ダイバーシティ&インクルージョン
- 働き方改革
- 人材育成
- 労働安全衛生

コーポレートガバナンス

グローバル化する社会的課題に正しく対応するための基盤を強化します

- 中期業績連動報酬制度
- 取締役会の多様性
- リスクマネジメント強化
- コンプライアンス体制強化

TOPIC

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定

横浜ゴムは、ESG対応に優れた日本企業のパフォーマンスを測定するための投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されました。本投資指数は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を行う際の指数にも選定されています。

当社は、GPIFが採用している日本企業に特化したESG投資指数では、ほかにも「FTSE Blossom Japan Index」に5年連続、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」にも継続的に採用されているほか、世界的なESG投資指数「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄にも17年連続で選定されています。